



まつもとじゅん

松本純

中区・磯子区・金沢区
まちかど
政治瓦版



令和4年8月1日号
発行

自民党

松本純 後援会
発行責任者
平木 茂

8 月号
2022年

No.233

松本純ホームページ▶<https://jun.or.jp/>

ご意見箱▶opinionbox@jun.or.jp/

安倍晋三元総理のご冥福を祈る ― 友情に感謝

令和4年7月8日、第90・96・97・98代日本国内閣総理大臣安倍晋三氏が凶弾に倒れました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに心よりご冥福をお祈り致します。安倍元総理の業績は多岐にわたり、日本の戦後最も偉大な総理大臣のおひとりとして、歴史に名前を刻むことになると思います。同時に、海外からも非常に高い評価を得ており、国際社会の中で、日本が十分なリーダーシップを発揮できたものと考えます。安倍元総理の業績をたたえ、9月27日日本武道館にて、国葬儀が催行されることが決定しました。

とても苦しかった私の去年の衆院選……。

私を絶対信頼していただいていた安倍晋三元総理は、ご自身の地元で選挙活動が終わるや否や真っ先に無所属立候補の松本純の応援に入ってくださいました。

その友情、ご恩に報いるいとまもなく安倍元総理は旅立たれてしまいました。悲しい、悔しい、とても残念です。

安倍先生のご冥福を祈ると共に残された者は安倍先生の遺志を繋いでいかなければならないと決意を新たにしています。

振り返るとゴルフに興じたり、安倍・麻生夕食懇談会に招かれたり楽しい思い出は語りつくせません。仕事でも麻生総理には官房副長官として、また安倍総理には国家公安委員長・防災担当大臣としてお仕えしました。

近くでお二人に接する機会を得た私は、安倍先生と麻生先生がお互いに相手を尊敬しお付き合いを深めること、そして礼を尽くすことから相互信頼が醸成されることを学ばせていただきました。

その麻生先生は、安倍先生が総理に就かれると、14歳若い安倍晋三先生に対して、総理の一步前を歩いてはならない、総理が到着されたら起立してお迎えするもの、馴れ馴れしく語らず敬語を使う、など敬意を表する所作については当たり前のこととして事細かに配慮されていました。

とにかく若いころから安倍先生を大事にしてきた麻生先生の様子を私はずっと見てきましたが、この度の安倍先生に捧げる弔辞の中に麻生先生の思い全てが語られています。

安倍先生、安らかに眠りください

安倍先生からいただいた友情、私は忘れません

安倍先生のご遺志を継ぎ、国家国民に微力を捧げて参ります。



【第1弾】松本純チャンネル
安倍晋三前首相 大いに語る
(前編)



【第2弾】松本純チャンネル
安倍晋三前首相 大いに語る
(後編)



2022(令和4)年8月1日 松本 純

安倍元総理の遺志を継ぐ



創薬 ◎難病に立ち向かい続けた安倍総理、新薬の有用性を最も理解していた政治家のおひとりでした。世界で創薬（新しい薬を作る）できるのは、日本など限られた先進国だけで、日本の創薬力低下を憂いていらっしゃいました。世界の薬の主流が、従来の化学合成からバイオなどを利用した新たな形態に変化する中で、日本は立ち遅れていました。松本の危機感を共有し「日本創薬力強化プラン」を後押ししてくれたのも安倍総理でした。コロナでも問題になっていますが、国産ワクチンや治療薬の開発は必須です。バイオなどの新薬への支援を続けなくてははいけません。

外交と安全保障 ◎外交問題と安全保障を最も積極的に行ったのが安倍総理でした。

地球儀を俯瞰する外交を行い、QUADなど現在のインド太平洋戦略を世界のものにしたのも安倍総理です。これは2006年の麻生外務大臣（当時）の「自由と繁栄の弧」の発展形であり、松本がお仕えした麻生、安倍という二人の政治家が二人三脚で描いた世界であります。戦後レジームから脱却し再び日本を世界の一等国に押し上げる。世界が混迷する今だからこそ、日本の役割は大きくなっています。



憲法改正 ◎ANAと呼ばれた3人の政治家、麻生太郎、安倍晋三、中川昭一、自民党の党是であり、日本の戦後レジームの最たるものが憲法改正です。

GHQにより作られた憲法を改正し、日本を取り戻す、これが三人の共通認識であり、そのために何をすべきか何ができるかを考え続けてきました。自衛隊問題など今の憲法では日本を守れない。この認識の中で、足掻き続けてきたのです。2012年の総裁選での麻生・安部の約束が、憲法改正を成し遂げるということでした。幸運にも身近でそれを見てきた政治家としてこれを夢として終わらせるわけにはいきません。

永田町日記

昭和33年、岸信介総理が自筆の書をプレゼントしたのは、8才の頃の松本純くんでした！

松本の政治との出会いは、一枚の写真にさかのぼります。昭和33年5月21日、藤山外相の選挙応援演説に来た岸信介総理を桜木町駅前で愛用の豆カメラで撮影し、「この写真はこの間ボクがとったものです。よくとれたので送ります。ボクは一生懸命勉強しますから岸さんも日本のために働いて下さい」という手紙とともに送ったところ、岸総理は自筆の「明るく清く正しく強く」という色紙とお礼状を返してくれたのです。それが、政治家・松本純の原点であり、岸信介総理のお孫さんである安倍晋三氏に仕える切っ掛けになったとも言えます。

